

第5回南砺市総合計画審議会  
会 議 録

期 日 平成18年11月21日(火) 午前9時30分から

会 場 南砺市役所福野庁舎 2階講堂

出席者

北 田 正 雄	会 長	川 合 声 一	副 会 長
島 田 勝 由	委 員	山 崎 正 大	委 員
倉 一 雄	委 員	奥 野 達 夫	委 員
嶋 信 一	委 員	川 合 友 之	委 員
大 西 正 隆	委 員	齋 藤 昭 一	委 員
小 林 敏 夫	委 員	池 部 恵 子	委 員
米 澤 博 孝	委 員	清 水 壽 一	委 員
山 本 秀 夫	委 員	塚 田 久 俊	委 員
鷺 野 孝 徳	委 員	寺 井 孝 夫	委 員
花 島 榮 一	委 員	中 藪 淳 一	委 員
渡 邊 久 雄	委 員	桜 井 光 雄	委 員
松 本 誠 一	委 員		

欠 席 者

水 木 猛	委 員	夏 野 修	委 員
吉 岡 勉	委 員	永 井 正 夫	委 員
藤 井 貢	委 員	岩 田 繁 子	委 員
宮 本 佳 子	委 員		

市 当 局

溝 口 進	市 長	清 都 邦 夫	助 役
山 本 勝 徳	収 入 役	梧 桐 角 也	教 育 長
中 山	市 長 政 策 室 長	大 家	総 務 部 長
向 川	民 生 部 長	堀	産 業 経 済 部 長
畑	建 設 部 長	西 村	医 療 局 長
重 原	市 長 政 策 室 次 長		

事 務 局

松 田	企 画 課 長	安 川	企 画 課 主 幹 ・ 企 画 係 長
上 口	企 画 課 企 画 係 副 主 幹	松 田	企 画 課 企 画 係 主 査
池 田	企 画 課 企 画 係 主 任		

事務局      ★司会進行  
                 ★配布資料の確認

会長            「たいへんご多用の中、お集まりいただきお礼申し上げます。今日は基本構想を12月議会にかけることもございますので、最終にしたいと思っております。基本計画についてはもう少し審議していただくことになると思っております。そうした点もふまえて十分審議していただければと思います。各地域で審議会が開催されております。その状況も当局から説明いただいて、会議を進めたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。」

市長            「熱心にご審議いただきありがとうございます。12月議会に基本構想をかけるということで大詰めに差し掛かっています。先般、県の総合計画の関係で知事と懇談する機会がありました。総合計画はあれもこれもと、総花的にならざるを得ない、私自身が県にそのように要望していたわけです。しかし考えてみますと、総合計画は大つかみに市のこれから行くべき道筋を示すことでなかろうかと思っております。この審議をさせていただいている間にも世の中の情勢は刻々と変わっていきます。基本構想の中で方針を決めていただくわけですが、基本計画、実施計画になれば、どういう順番でどういう手法でやっていくのかということ、一つ一つ検討して決定していかなければならないということになります。そういう作業がこれから続くわけですが、最後まで、いい計画にするため、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。」

会長            「レジュメにより会議を進めますのでよろしく申し上げます。最初に第4回の審議会の議事録を事前に配布してあると思っております。これについてご意見があればお聞きしたいと思っております。特になければこの議事録はご確認いただいたということでよろしいでしょうか。」

(異議なし)

会長            「それでは次に基本構想についてです。12月の定例会に基本構想を提案することになっております。懸案となっております将来像の取り扱い、そして市長さんへの答申についての審議を進めるわけですので、当局から説明を受けながら将来像についてから始めたいと思っております。」

事務局          「基本構想の内容につきましては第2回の審議会のときのものとは基本的に変わっておりません。6ページの基本構想と人口の取り扱いですが、前回の審議会での経緯をふまえ、平成26年の目標人口を56,000人にしますという文言を入れております。そして年齢階層別の人口の推移ということで表を載せております。基本構想ということで今お願いしております、みんなで取り組むまちづくりの姿をどうするかということで、今日改めてお手元に資料1を配付しております。案の1から案の4についてご意見をいただきたいということで、事前に照会をさせていただいた結果がありますが、意見が2つに分かれております。そしてさらに委員の

皆さんから追加案が出てきております。これらの調整についてお願いしたいということですが、それからパブリックコメントについて11月1日から20日間行ったわけですが、コメントがあったのは1件だけです。『LOHAS 南砺』というまちを目指したらどうかという意見でした。この将来像が決まりましたら、それにあわせて文章、コピーを変更することにしておりますのでよろしくお願いします。」

会長 「前回平成28年目標人口56,000人ということで決めさせていただきました。これを基本に構想を作り上げていただいているところですが、キャッチフレーズといいますが、キャッチコピーといいますが、前回4つの案を提示しましたが、この中から1つお選びいただきたいというお話をしていると聞いております。しかし実際開いてみますとこの4案以外にまたいくつかの案が出てきました。また、パブリックコメントから新しい案が出てきました。これらすべてを選ぶわけにもいきませんので、将来の南砺の表題でもございますので、ご意見をお聞かせいただきながらまとめさせていただければありがたいと思っております。」

委員 「私も追加した一人なのですが、南砺市以外の人に訴えるのか南砺市民の皆さんに対して協力して一緒にやろうというのかどちらが主なのか、例えば南砺市民の皆さんと一緒にがんばろうというのなら、自然・文化・交流がというのを入れればいいと思いますし、他の人に見てもらって南砺市が目立ちたいのなら、五箇山や散居というのを入れればいいし、これはどっちなのですかね。」

会長 「市民に向いても、対外的にもアピールしていかないといけません。」

委員 「先般、議会の全員協議会がありまして、議員仲間でいろいろと意見を聞いておりましたら、案の1、案の2、案の3、案の4についてはほとんど半々でした。私個人の気持ちとすれば案の2の『合掌と散居のまちから世界へ』というのがいいのかなと思ったわけですが、今日追加の案を見てまた迷うわけですし、追加案の『南砺 合掌と散居の里から』というところかなという気がします。」

会長 「この種の問題については多数決で決めるのもどうかと思いますので、できれば全会一致で決めさせていただければありがたいなと思います。」

委員 「今若い人たちを採用するときに、企業の業績や企業風土、社長の人格だけでは来てくれません。その都市や地域が魅力的だと感じたときに若い人たちがその地域で働こうかなと感じてくれるようです。お手元に配付した資料では一人当たりの県民所得は南関東、東海地方に次いで北陸が3番目です。地方圏ではすごいことです。大学の進学率では近畿地方、南関東、東海の次が北陸です。ある意味では所得の高さが高い教育を受けさせることができたバックボーンになっているということがお分かりいただけると思います。平成18年8月の有効求人倍率では全国平均が1.08で北陸は1.31で、東海が1.59でダントツ、南関東が1.27ということで、地域別では2番目です。このことから北陸3県は企業がたくさん集積しており、有効求人倍率が高く、家族みんなで働ける場所が提供されている。所得水準が高く、子弟を大学に進学させることができる。そしてその子弟が優秀な勤

勉な人材として育てている。今心配なのは、質の高い企業集積から大学進学率は変わりませんが、優秀、勤勉な人材がこの北陸、南砺市に戻ってきてくれるかです。そういったことからキャッチフレーズに戻ると、世界遺産という言葉で南砺市の自然やそういう豊かさを表し、南砺市は工業製品の出荷額の高いところでもあるということで、若い人たちがどうしたら来てくれるかなということで『世界遺産と産業の共生都市 南砺』ということ案として考えたわけです。言いたかったのは豊かになるための前提条件をどう取り込むかということです。」

委員 「私も今の説に賛成なのですが、キャッチフレーズ、全体像は短いほどいいと思うのです。市民にとっても覚えやすい。それと外の人が見ても納得できる、中に住んでいる人も納得できる、なかなか難しいです。県内のほかの市の全体像を見ますと、元気都市というのがいくつもあります。世界へと言えるのは南砺市ならではです。追加の5というのを見ていただきたいのですが、南砺市らしさはないかもしれませんが、総合計画あるいは南砺市の原点は富山県内の先頭を切ってまず合併を成し遂げたという、そういう先駆けてというような部分を言葉としていれることができれば、なんかこう、よし、やろうじゃないか、先端的なことに挑戦しようじゃないかというような、そういうニュアンスがでてくるのかなという気がします。それで、合掌とか散居というのは緑の里、町でもいいかなと思いますが、それで世界を視野に入れて、そういう言葉を補えば追加の5というのは締まりはいいのではないかなという感じがしました。南砺市のたとえば名刺とか封筒に入れてもそのまま通用しますし、企業誘致でもこういうすばらしいところですよというようなアピールもできますし、住んでいる人も住んでいてよかったという実感が湧くかなと感じます。ですからその場合にはいろんな写真だとか言葉で補えば追加の5というのはわりと使い勝手がいいかなという感じがします。」

会長 「まだ他にご意見はないでしょうか。特にないようですが、一長一短ありますし、たいへん難しい問題だと思いますが、この地域は子どもさん方がたくさん大学へ進学される地域であろうと思っておりますが、その子どもさんたちが学校を卒業して地元へ帰ってきて、この場所で活躍できるのかなということを考えてみますと、そのためにはやはり活力がある、ネームバリューのある名前にしていただいたほうがいいのかというような気もいたしますし、自然や世界遺産を抜きにしてキャッチフレーズを掲げるのもいかがなものかなという気もいたします。先達にご苦労いただいて立派につくられたこの地域にそうした立派な文化遺産がありますので、そうした面を含めて、何か一つ方向付けを決めさせていただきたいと思っておりますけれども。」

委員 「思いはそれぞれだと思うので、できれば溝口市長のご意見を尊重してはどうかと思うのですが。」

市長 「私はこのあいだの知事との懇談の中でも言いましたが、富山県は人材供給県であるということで少し威張っているという感じですが、やはり総合計画としては人材が集中してくる、人材が集まってくるというようなことでないと総合計画にならないのではないですかということをおし上げました。私がそこで感じたことは、

南砺市ができたときに南砺市の市章ですね。市章を小学校の子どもが考案したものを当選とさせていただいた。これが私の気持ちそのものでないか。赤の丸が4つある、これは活力だ、人だというわけです。それから青い空が2つ。緑が2つ。そういうのが市章にあるものですから先ほどからのお話しの中で、やっぱり人という要素を、元気を出そうという要素ですか、そういうものが半分ほどあって、それからあと自然とか伝統とかいうものが少しあればいいかなと、そのような感じがしているので、先ほどお話しにありました『さきがけて 緑の里から 世界へ』というのは少しまだ練れていないという感じもありますが、市章のイメージとしていいかなという気がします。」

会長 「最初はなじめなくても、年月が経過しますと、南砺市のキャッチフレーズになっていくというような気もします。新しいものは最初なかなか馴染めないものですが、そうした意味もありますので、どなたでもご意見があればまだ遠慮せずにご発言いただきたい。」

委員 「私はこの総合計画を進めるにあたり若い人がどのように感じ取っていただけるか、南砺市で頑張ろうというような気持ちがないと、この総合計画というのは非常に難航すると思います。南砺市で頑張ろう、魅力ある南砺市ということになれば、若い人がどのように考えているかということを経済計画の中に第一番に入れるべきだと考えます。いろんな文化も大事ですが、若い人が感じ取れる、南砺市の市章にしたって若い人の、小学生の作品を採用されました。私はそういう点から、この中から選ぶとしたら私はやっぱりフロンティア都市。緑ももちろん大事でありますし、これからの若い人たちに分かりやすい言葉で、投げかけるようなキャッチフレーズであったほうがいいかなと思っております。」

委員 「私は出身の地域以外の7地域についてはまだ分からないところがあります。まずそういうところを知ることが、南砺市づくり、まちづくりになるのかなと考えております。そう意味で言いますと南砺市民みんなが南砺というところに誇りを持つ、温かみを持つというキャッチフレーズ、そして私たち南砺市民が南砺市に愛着を持つ、この市を愛するという気持ちがあればこそ周りから見ると南砺市というのは市民が南砺市を愛し、そして周りの人を迎えてくれるのではないかなというような、そういう言葉が適切でないかなというような気がします。全体的に見て思うのですが、キャッチフレーズ自体が硬いとあまり皆さんの目に入らない、やさしさとか温かい言葉で入っていくのが、南砺市民そして県外のみなさんに通じる言葉になるのかなと思います。ふるさとだとか力みなぎるだとか、そういうずっと入ってくる言葉があると非常に分かりやすいのかなという気がします。」

委員 「短い言葉ですべてを表すのは不可能、何かを言えばそれだけじゃ足りないでしょうというのが現状だと思います。ですから、ここに書いてあるキャッチフレーズでこれがいいというものは一つもありません。キャッチフレーズは市が年を経るに従っていろいろと変わっていくと思います。現在一番欲しいのとは何か、あるいは端的にどういうことを言えばいいのかということになりますと、世界遺産と産業

の共生というように今一番求めるものを出せばいいのか、それともここに住むときはこういう心のゆとりがありますよという、いいところですよということを出したいのか、それによって言葉が違ってくると思います。それともう一つ申し上げたいのは、キャッチフレーズを出してその後何がしかの説明がつくとすれば、トータル的に何か一つにまとめて仕上げなければいけないのかなと思います。すべてを言い表すことができないとすれば10年、20年後にどういう形に変わろうとも現在新生南砺市が求める姿というもの、あるいは皆さんに知っていただきたい姿というものを選定すべきかなと思います。」

委員 「他の県とか市町村のケースを見ていますと、議論を重ねた上で多くは首長さんと会長さんと協議してという場合が多いです。できれば事務局のほうで若い職員のニュアンスも求められて、トップのほうでどの方向で行くのかというほうが決まると思います。会議でこういう感覚的なことを決めるのは難しいと思います。それと、南砺市の観光、産業、企業誘致ということを考えますと、等身大、だけれどもピリッと光るものに挑戦しようじゃないかという、そういう部分とか、観光にしてもゆったりと長期滞在して心を癒していただくような、南砺へ来たら元気がいただける、あるいはパロミたいな世界の先端に行くような小さいけどピリッとくるような挑戦をしている人たちもいるというような、なにかそういう夢が出てくるような、等身大の南砺市づくりというのが必要かなと思います。それから新市の気性という点では富山県が全国一ですが、中でも富山県内では南砺市は新しいことに挑戦し続けてきたということも大事にさせていただければ、もっと市民の共感も得られるのではないかなという感じがします。」

会長 「当局でもなかなか決めかねるから、皆さん方に相談したというように聞いておりますので、この場で決めさせていただければと思っております。先ほどからの委員の皆さんの意見をふまえ、『さきがけて 緑の里から 世界へ』に決めさせていただければと思いますが、全会一致で、ここにいる委員さん全員で決めたということにさせていただければと思っておりませんがいかがでしょうか。」

(異議なし)

会長 「それでは最終的に『さきがけて 緑の里から 世界へ』に全会一致で決めさせていただいたということでご理解いただきたいと思います。どうもありがとうございました。皆さん方にお配りしてある総合計画の基本構想案ですが、全部で13ページになりますか、これに少々の意見を具申しながら12月議会に向けて提案したいということですが、この基本構想案について特に何かあればお聞かせいただきたいと思います。」

事務局 「今ほどはありがとうございました。基本構想のなかで6ページのところにそれが入るわけです。したがって先ほど申しましたように、この説明書きを若干変える必要があるかと思っておりますので、今改めて6ページ目だけ差し替えになると思いますのでよろしくをお願いします。」

会長 「基本構想の6ページにコメントが必要であろうということで、手直しが必要であるということですが、これについてはいかがでしょうか。とくになければ、基本構想はこういう形でまとめさせていただいたということにさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。」

(異議なし)

会長 「ありがとうございました。特にご意見がないようですので、皆さん方の意見を集約しながら、基本構想を市長さんへ答申させていただきたいと思います。これを基本にもう少しすっきりした形で、できれば私と副会長に任せていただいて、二人で明日にでも答申させていただければと思いますがいかがでしょうか。」

(異議なし)

会長 「ありがとうございました。」

委員 「表紙はこのまま出されるのですか。」

会長 「今のところこのままの予定です。」

委員 「もう少し検討してもらいたいのですが。」

事務局 「表紙は案ですので、またすっきりしたもので出す予定にはしておりますが、全体的なスタイルはこういう方針ということで、印刷したものはもう少しわかりやすくなると思います。」

会長 「そういうことで表紙は一部訂正させていただきます。11月6日から地域審議会が各地域で行われております。この資料も一部出ておりますので、地域審議会でのような意見が出ているのか事務局から説明をお願いします。」

事務局 「資料2をお配りしております。実はこのあと21日に利賀で、22日に平において地域審議会が残っております。6会場終わった中で、人口減少に対しての意見が多くあります。次に少子化、とりわけ結婚問題、なにか具体的方法はないのだろうかとか、少子化対策について抜本的な対策はないのか、そういったことがあります。次に多いのが企業誘致です。活力の源は企業誘致であろうという意見です。市街地、住宅密集地に対する用途地域の見直し、幹線道路の整備、空き家対策そういったものもでております。それから東海北陸道全線開通に向けた施策、新たなインターチェンジの設置について、熊の問題と里山整備、散居村の景観という意味での空き家対策と屋敷林補助等の見直し、基準が厳しいという意見があります。教育関係では食育に加え食農にふれるべきではないか、いじめ問題も気にすべきじゃないかという意見もあります。防災に関しては防災センターの計画はどうなっているのか、あるいは防災訓練はもっと実施すべきじゃないか、あるいは地震対策はということもありますし、学校の耐震化についての問題ということ

もあります。その他ということで、文化会館、図書館の建設、それから用語について難しいものは日本語に直す、あるいは細かく説明しすぎだという部分もありますので、基本計画の中ですがもう一度整理をさせていただくことにしております。それからイベントが多いということで何か市で一つのイベントができないものだろうかということ、それから医療費が高くなるということで健康教室とかそういったものを計画の中で取り組んで欲しいというような意見がありました。これからまだ利賀地域と平地地域の審議会が残っておりますが、そこでの意見もおつなぎしたいと思います。それから基本計画についていくつか修正等の意見がでておりますので、その部分も含め簡単に説明させていただきたいと思います。」

事務局 「続けて説明させていただきます。お手元に 10 月 23 日以降の変更等ということでお出ししております。先にお渡ししたのから変更になっておりますので差し替えをお願いしたいと思います。」

会長 「ただいまの修正等のほかにまだご意見がありましたらお聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。特にありませんか。なければ次に移らせていただきます。本日の議題については以上ですが、次回の日程について分かればおつなぎしていただきたいと思います。」

事務局 「次回の日程ですが、12 月議会や予算作成の関係から来年になると思いますが、日程が決まり次第、早めにお知らせしたいと思いますのでよろしくをお願いします。」

会長 「このあとまだ基本計画、実施計画があるわけで、皆さんからいただいた意見を基に修正しながら進めさせていただきますので、ご意見がありましたら事務局へおつなぎいただきたいと思います。最後に助役さんから挨拶をいただきたいと思います。」

助役 「12 月議会でこの基本構想についてご承認をいただきたいと思います。今日決めていただきました『さきがけて 緑の里から 世界へ』、会長さんにもご苦労いただいて、たくさんの方からの意見をまとめていただいたと思っています。このキャッチフレーズといいますか、こういう気持ちで我々当局も一生懸命南砺市づくりに努力をさせていただきたい、という思いを込めて聞かせていただいたところです。この後基本計画の問題、実施計画の問題、私どもとしてもクリアしなければならない問題、皆さん方に相談しなければならない課題などたくさん抱えているわけですし、これからも南砺市に思いをはせながら、皆さんとともに努力させていただきたいと思います。このことをお願いを申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。」

時：11時40分